

景況実感調査(4月)特記事項

毎月、景況実感調査にご協力頂きましてありがとうございます。集計結果は別紙にてお送りしましたが、今月もたくさんのコメントを頂きましたのでお送りします。ご査収下さい。

[お断り]毎月のコメントはあくまで個々の“生の声”です。業界全体の標準的見解とは、若干異なる場合もあります。また、不適当な表現やわかりにくい表現については書き直しております。信用問題にかかわるものも原則として掲載しておりません。

薄板・表面処理鋼板

- ① 前月に続き荷動きが悪い。安値も聞こえるようになっているが、5月は踏ん張りどき。在庫も増えてきているため、市況のウォッチを続けたい。
- ② 商況は低調。一部店売り品は3月駆け込みの反動もあり、実需としては2月の大雪被害の復旧エリアが賑わい超繁忙とのこと。鉄筋工や型枠大工の不足、ファブも加工能力いっぱいの受注を抱えており、建築の上工程のボトルネックが工期全体を支配していて、資材の荷動きも冴えない。H形鋼の在庫も危険水準と思われ、見通しもつけづらい。9月以降にはオリンピック向けの案件も出て来ると思うが、これでは車も人も足らず不安が残る。薄板関連、プレス、工場板金関係も仕事が薄く困っているとの得意先の声が聞こえてくる。
- ③ 現行相場の維持に努めているが、厳しい状況が続くであろう。
- ④ 3月に消費税がらみの出荷増も無く、4月も良くない。

中板

- ① 需要が大幅減。局地戦では安値も散見。タイト感が全くなくなる。夏場からの建築需要が期待される中、ここが踏ん張りどころ。しっかりと商売していきたい。
- ② あまり消費税の影響がないように思えたのだが、例年に比べて仕事が少ないように感じる。今年も秋からなのか。

厚板

- ① 夏場以降は再開発案件が具体的に動くことから、厚板のデリバリーは相当活況になる見込みである。足下は工事遅延物件も見られ、4月の荷動きは総じて悪かったが、価格面に下がる要素はなく、4～6月は様子見の状況となりそう。

— 舟受開金鋼

- ① 4月の売上高は3月比20%強の激減だったが、3月は消費税値上げ前の駆け込み売上が多かったようだ。3月、4月の2か月の平均値を求めれば前年度よりもハイレベルなので現状に窮す必要はない。
- ② 現場は全国的に大量にあるが、職人不足、トラック不足で施工が遅れている。景気が良くなる要因を潰すのはもったいない。

— H形鋼

- ① 在庫は依然として高水準となっているが、工事関係の中断や遅れが出ているのが要因。夏場以降には、大型プロジェクトが始まることもあり、荷動きは回復してくるので、我慢の時である。
- ② メーカーはまだ強気の姿勢のため、価格の維持と転稼に努める。
- ③ 引合いが少なくなっている。市況も弱含みで推移している感がある。在庫のタイト感が出てこないとし況上昇にはならない。

異形棒鋼

- ① 荷動き不振は変わらず、採算も悪い。流通として採算確保を求めて市況維持に努めているが、一部メーカーの安値販売が市場を乱している。
- ② 店売り価格は変わっていない。例年4月5月6月は荷動き悪く、本年も同じ。しかし昨年と比べ今年は10%以上良いと思う。

平鋼

- ① 4月の荷動きは一転して大幅減。増税前の駆け込み需要の反動もあったかもしれないが、実感としてはなかった。小平メーカー撤退後、事業を代替メーカーが行うことになったが、稼働準備中であり小平在庫は歯抜け状況。入荷予定も当面混乱は避けられない。

鋼管

- ① 微増ではあるが、売上金額・売上数量ともに昨年よりは上がってきている。当面の目標は、メーカー値上げの市況への転嫁である。
- ② 例年の4月に比べ出荷状況は良い。連休前後も日割りでは変化なく、低位ながらも底堅く推移。

構造用鋼

- ① 需要動向については、自動車関連部品は消費増税後の影響も比較的小幅なものとなっている。建設機械関連については、中小型機種は北米向けなど堅調に推移しているが、大型機種は低迷している状況が続いている。店売りの荷動きについては、引き続き横這いで推移している。市況については、メーカーの製品値上げを受けて仕入れ価格も上昇してきているが、荷動きが全体的に盛り上がらないことから、価格転嫁には時間がかかるものと思われる。

その他

<ボルト・ナット>

- ① 消費増税前の駆け込み受注もなく、4月に入り荷動きは低調。原材料価格上昇に見合う販売価格への転嫁は難しい状況。

<電炉品種全般>

- ① 製販ともに踏ん張りどころ。もう少しの辛抱。需要は上向くとこの情報が多い。過去の学習効果が生かされるか。

<曲げ加工>

- ① 4月に入ってもいまだに加工売上が伸びず、まばら受注状態であった。当社にとっては毎年だが、春先は思うように数字が上がらないのが現状である。また、5月に入っても連休などの影響で、多少下がる恐れもある。ただし、夏場にかけて景況が良くなる見通しという声もあり、期待したい。

<スクラップ>

- ① 昨年末からの相場急落後、4か月ぶりに値上げした。しかし、電炉メーカーは減産姿勢のところもあり、連休前にもかかわらず、いま一つだった。
- ② 産業の空洞化が進んでいる。

<金属表面処理加工>

- ① 4月は物件物、紐付き材とも予定通り。中旬以降のスポットの引合い・成約とも順調で活発に推移。物件物の輸送に関して車両不足で早めの手配が必要となっている

ことと、運賃高騰に苦勞している。5月以降も大手ユーザーの工程が順調に進んでいることから、高操業がしばらく続きそうである。